

基本構想に関する答申部分

注意:第2専門部会担当部分「基本目標2、個別目標」については1/23現在の案、第3専門部会の担当部分「基本目標3、個別目標」については1/18現在の案を掲載しています。

1 基本目標について

大田区の将来像「」を実現するため、基本理念のもとに、審議会・専門部会での審議経過を踏まえ、専門部会ごとの3つの領域(「都市基盤・産業」、「保健福祉・子育て・教育」、「地域力・環境・区政体制」)で基本目標を策定し、将来像と同様に区民共通の目標とするため、わかりやすく表現した下記のキャッチフレーズを掲げるべきと考えます。

基本目標の前文

大田区の将来像「」を実現するため、基本理念のもとに、「都市基盤・産業」領域、「保健福祉・子育て・教育」領域、「地域力・環境・区政体制」領域それぞれに対して、下記の基本目標を掲げる。

基本目標1 「まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市」(案)

これまで築き上げてきた都市環境や産業技術を土台に、快適な暮らしと創造力あふれる産業とが同居する豊かな都市空間を形成し、未来に向けて輝き続けるまちをつくります。

また、羽田空港の再拡張・国際化や、豊かな水辺環境、高度技術の集積などのまちの魅力の向上によって、区内外から多数の来訪者が集まり、多彩な交流活動が行われる活力あるまちを実現します。

基本目標2 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち

すべての区民が、自らの能力を十分に発揮し、住みなれた地域で安心していきいきと暮らすために、区民一人ひとり、地域、団体、事業者、行政がそれぞれの特性を發揮して、地域で暮らす区民の幸せな生活を支え、安心と支えあいのまちをつくります。

子どもたちを地域の宝として尊重し、産み育てやすい環境を充実させるとともに、就学期の子どもの健やかな成長と未来を支える、良好な教育環境をつくります。健康を支えるしくみづくりや、障がいをもつ区民への支援を行い、生きがいと学ぶ意欲を大切にすることによって、誰もが生涯をいきいきと過ごせるまちを実現します。高齢者が住みなれた地域で、健康で生きがいと尊厳を持って暮らせるまちをつくります。

基本目標3 地域力と行政の連携が作る人と地球にやさしいまち

地域は、区民一人ひとりによって構成され、支えられています。人やまちへの思いやりの心と規範意識を持ち、一人ひとりの力を「地域力」として発揮し、人と地球にやさしいまちをつくります。

区は、地域力を支え、さらに大きな力へと結びつける役割を積極的に担います。

2 個別目標について

個別目標とは、基本目標ごとに領域をさらに細分化した分野に対する目標であり、審議会では、3つの専門部会（「都市基盤・産業」、「保健福祉・子育て・教育」、「地域力・環境・区政体制」）ごとに審議した内容を踏まえ、領域ごとに掲げた基本目標の内容をさらに具体化し、施策の方向性を示すため、下記の個別目標と、めざすべき方向を以下のとおりまとめ答申します。

個別目標は、前文、内容を簡潔に表現したフレーズ、説明文から構成します。

個別目標の前文

「都市基盤・産業」領域、「保健福祉・子育て・教育」領域、「地域力・環境・区政体制」領域それぞれの基本目標の内容をさらに具体化し、施策の方向性を示すため、下記の個別目標を掲げる。

基本目標 1 （都市基盤・空港・産業）

個別目標 1 水と緑（みどり）を大切（大事）にし、すべての人に安全・安心で

潤いのある暮らしを実現します

大田区の中心である大森、蒲田、そして羽田空港周辺については、隣接市区に負けない魅力に溢れた賑わいあるまちづくりを進めます。区内の各地域においては、住民、企業、行政などが一体となって、将来の地域のあり方について考え、実践していく新たなまちづくりに取り組みます。

防犯・防災対策に配慮し、高齢者・障がい者・外国人など誰でも安心して動き回ることができるまちにするなど、安全で快適な暮らしを支えるまちづくりを進めます。

水辺や緑など身近な自然環境と触れ合う場を守り育てるとともに、景観や東京全体の環境にも配慮したまちづくりを行います。さらに、アートをまちづくりに取り入れるなど、人々に潤いと活力を与える取り組みを進めます。

区内で暮らし働く人や、羽田空港へアクセスする人が快適に不自由なく移動することができるよう、交通環境の改善に努めます。そして、水と緑、ものづくりの集積、羽田空港の立地などを活かした集客・観光施策に取り組みます。

個別目標 2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市

を創ります

首都の玄関口である羽田空港を大田区の誇れる財産として活用し、アジアをはじめとした諸外国との国際交流を一層進めます。空港用地外となる跡地については、区民の意向を踏まえ、地域と空港とが共生できる視点からの有効利用を推進します。また、空港機能を十分に活用した新しい産業との連携を進め、大田ブランドの発信拠点とし

での展開を進めます。

臨海部、多摩川・呑川等の水辺空間の利活用を促進し、区民の暮らしとともに、首都圏全体が潤うような空間整備を図ります。また、水辺を活かした舟運など水上交通についての検討を進めます。

大田区を訪れたり、区内で暮らしていたりする多様な文化的背景を持つ外国の人びとが、快適に過ごすことのできるまちづくりを進めます。

個別目標3 モノ(もの)づくりから未来へ独自の産業と都市文化を創造します

ものづくりにおける高度な技術・技能を有する企業が集まるという地域特性を維持し、さらに発展していくため、人材育成や新たなビジネス創造に向けた仲介・支援などに取り組みます。また、国際化する羽田空港の立地を活かして、ものづくり創造都市としての大田ブランドを世界へと発信します。

高齢化社会を迎える中、身近な地域での快適な暮らしを支える商店街などの商業機能の活性化を図ります。区内外の人びとが集まる地区においては、競争力のある商業拠点機能整備を進めます。

また、暮らしと産業とが身近に接する職住一体のまちとして、ものづくりや商業、観光などの多様な産業が地域の魅力を高め、まちの魅力とものづくりなどの産業とが支え合うまちをつくります。

基本目標2 生涯を安心していきいきと暮らせるまち

個別目標1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

未来を担う子どもの健やかな成長を願い、保健・医療体制を充実させるとともに、子どもと家庭のニーズに合わせた、子育てや保育の環境整備を進めます。地域と行政がそれぞれの役割を果たし、手を携えて、子どもの成長と子育て世代を支援します。

学校では、地域の特性や多様性を尊重し、子どもたちが学ぶ喜びを知り、社会性と生きる力を身につける学校教育を実践するため、学校、地域、家庭が力を合

わせ、未来を担う子どもたちの学びを支え、教育力を高めます。

個別目標 2 誰もが自分らしく、いきいきと暮らせるまちをつくりま

元気でいきいきした生活の基盤となる、心とからだの健康づくりを進め、安心して暮らせる生活環境を確保するため、医療関連機関や事業者、地域、行政の連携を進めます。

障がい者が自分らしく安心して暮らせるよう、地域での生活を見守り、支える仕組みと意識を育て、自立、就労、社会参加を進めるとともに、誰もが安全に移動し、生活できる、ユニバーサルデザインの視点を持った、誰にも優しいまちをつくりま

す。
また、誰もが、生涯をはつらつと生きるため、学習の機会や環境を確保し、地域における自らの役割と生きがいを実感できる仕組みをつくりま

個別目標 3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま

す。
高齢者がいつまでも健康な心身を保ち、長い人生で培った経験、技術や社会参加の意欲が地域で活かされ、生きがいと居場所を持てるまちをつくりま

す。
また、生活に支えが必要となったときの不安を解消し、いつまでも住み慣れたまちに住み続けることができるよう、質の高い介護体制や家族への支援を充実させるとともに、高齢者を地域で見守る安らぎのまちをつくりま

基本目標 3 地域力と行政の連携がつくる人と地球にやさしいまち

個別目標 1 地域力が、区民主体の（人にやさしい・暮らしやすい）まちをつ

くりま
す。
区民一人ひとりが抱くわがまちへの思いを行動に変える力。この区民の力と自治会・町会や事業者、団体・NPO 等が有する実績や専門性を地域力として結集することで、だれもが安全に安心して暮らせる人にやさしいまち（安全・安心の暮らしやすいまち）をつくりま

す。
また、地域の歴史や文化、自然などの地域資源を地域力と結びつけることで、魅力あふれるまちをつくりま

個別目標2 私たち区民が、(環境と経済双方における)持続可能なまちをつくる担い手です

ものづくりをはじめとする大田区の特徴を活かし、環境と経済双方において持続可能なまちをつくります。そのためには、区民や自治会・町会、事業者、団体・NPO、区等、地域を構成する全ての主体が、地球温暖化などの環境問題に対する認識を共有し、それぞれの責任と役割を担います。特に省エネルギーの推進や自然エネルギーの積極的な活用のほか、産業活動や日々の生活における廃棄物の発生抑制の推進など、限りある資源を大切かつ有効に活用する資源循環型のまちづくりに取り組みます。

また、大田区の地域資源である水辺環境を守り、緑化を積極的に推進するなど、水とみどりの調和したまちをつくります。

個別目標3 (区は、)地域を支え、効率的で活力ある区政を実現します

区民に対する説明責任の徹底、区政情報の効果的な発信や、規律的・効率的な行財政運営の推進など、区政の透明性と効率性を高めます。

また、区は、区民に最も身近な自律した自治体(政府)として、多くの区民が参画しやすい、活力ある区政を展開します。

さらに地域と行政が連携・協働することで、地域自らが地域の課題を解決できる仕組みをつくります。

基本計画に関する部分

1 基本計画で取り組むべき施策について

審議を進めていく中で、基本構想に示す将来像、基本目標、個別目標を実現するための手段として、区が進めるべき施策のイメージや方向性、具体的な事業など、様々な議論がありました。また、区民との意見交換会やアンケート調査を通じて寄せられた区民の意見・要望を受け、当審議会は、基本計画で取り組むべき施策例として以下のとおり答申します。

基本目標 1 「まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市」(案)

個別目標 1 水と緑(みどり)を大切(大事)にし、すべての人に安全・安心で

潤いのある暮らしを実現します

地域特性を活かしたまちづくり

地域の特性を活かした魅力あるまちを、地域の力とともにつくる必要があります。また、羽田空港への玄関口として、羽田空港の国際化・24 時間化に対応したまちづくりが求められています。

蒲田駅周辺や大森駅周辺においては、ランドデザイン等のまちづくりの基本的ルールを策定しまちづくりを進めるべきと考えます。まちづくりにあたっては、歴史と文化を踏まえ、地域の特色を活かす視点で取り組むとともに、区内の公共施設や生活道路、公園などに、生活に潤いと豊かな感性を育てるアートを取り入れることも考えられます。あわせて、大田区の誇る技術・技能を活用し、大田区のものづくりを世界へアピールする積極的な取り組みが重要です。

(施策例)

- ・大森駅周辺のまちづくり
 - ・蒲田駅周辺のまちづくり
 - ・羽田空港の国際化に対応したまちづくりの推進
 - ・ものづくりとアートのコラボレーションによるまちづくり
 - ・アートを活かした大田区の魅力発信
 - ・地域コミュニティの活性化を推進
 - ・魅力あるまちに向けた地域拠点の整備
- 等

交通ネットワークの充実したまちづくり

羽田空港の拡張により、新空港線(蒲蒲線)整備などのアクセス強化への取り組みが必要です。

水辺に恵まれた大田区は、舟運等の水上交通のポテンシャルの高い地域でもあります。生活者・観光客双方が利用できる、便利で快適な交通機関として、関係機関と連携しながら水上交通を整備していくことが求められます。区内には公共交通手段が不便な地域もあり、こうした地域における利便性の向上のために、コミュニティバスの導入についても検討を進めていく必要があります。

自転車は環境にやさしい交通手段ですが、歩行者、車いす利用者と共存するためにも、放置自転車対策や安全な歩行者導線の確保が重要です。

(施策例)

- ・安全で快適に移動できる交通ネットワーク環境の充実
- ・歩行者にもやさしい道路環境の整備
- ・空港アクセスの向上に向けた交通ネットワークの整備促進 等

安全、安心なまちづくり

区内には、大地震などの発生時には大規模な災害につながりかねない木造の住宅が密集している地域があります。区はこれまで区内の建物の不燃化に取り組んでいますが、今後も不燃化対策・耐震改修や木造密集住宅市街地整備等を進めるとともに、避難場所として緑地の整備を図ることが求められます。

また、これらのまちづくりにあたっては、誰もが、安心して暮らせるユニバーサルデザインの視点で様々な課題に取り組むことが望まれます。

さらに、今後の羽田空港の拡張により、これまで以上に多くの人々が大田区を訪れるようになり、地域の安全を守っていくことがより重要な課題になると考えられます。そのため、防犯カメラ設置や安全パトロールなど、地域の住民や商店街等と連携した防犯対策を一層充実させていくことが求められます。

(施策例)

- ・安全、安心に生活できる快適な住まいづくり
- ・災害時における避難路や橋梁・建物の耐震化を促進
- ・地域が一体となった防犯対策の充実 等

水と緑に親しめる空間づくり

大田区は東京湾をはじめとして、多摩川・呑川など、多くのウォーター・フロントを有しています。しかし、現状では一般の区民が水辺に触れ、親しむことのできる空間は限られています。そのため、区民が水辺に親しめる空間づくりのために、水質の浄化や景観の改善に取り組むとともに、散策路・公園・休憩所等の施設整備を進めることが必要です。

また、住宅地の緑の保全や屋上緑化など環境にやさしいまちづくりを推進し、公園緑地や水辺と結んだ、水と緑のネットワークを形成していくことが求められます。

(施策例)

- ・ゆとりとやすらぎを与える憩い空間の整備
- ・自然に触れ合えるまちづくりの推進
- ・心に豊かさを感じる美しいまちなみの整備 等

個別目標 2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

羽田空港を活かしたまちの国際化とにぎわいづくり

再拡張・国際化する羽田空港は、首都圏の、そして我が国の玄関口としての機能を高め、ますます多くの人々が訪れる地となります。空港跡地の利活用を進め、商業・宿泊・商談・物流など様々な魅力ある施設を配置し、アジアの人とモノと情報とが集積する一大交流拠点整備など、空港立地自治体としての特性と可能性を活かしたまちづくりが重要です。

(施策例)

- ・にぎわいを生み出す国際文化交流拠点の整備
- ・国際空港を活かしたまちづくりの推進 等

臨海部の活用

大田区は東京湾に面した恵まれた環境にあります。臨海部は、羽田空港国際化や跡地利用開発によって、活用のポテンシャルが今後一層高まると考えられます。そのため、水辺の利活用を積極的に進め、海上公園や大規模緑地などの集客スポットの整備が望まれます。さらに、市街地からのアクセス強化を図るとともに、臨海部の景観

を改善していくことが求められます。

(施策例)

- ・臨海部道路網、空港アクセス道路の整備
- ・ウォーターフロントの活用推進
- ・海辺のスポットづくり 等

国際化に対応したまちづくり

国際空港を有する地域として、大田区は区内に居住する、あるいは区内を訪れる外国人が、迷わないまちづくりを進めることが重要です。そのために、区内の公共施設等の表示をわかりやすくするとともに、かつ多言語化を考慮する必要があります。

また、関係機関と連携しながら医療・福祉・教育等の生活機能の国際的な対応を進めることが必要です。さらに、多くの区民が言葉や生活習慣などを含めた多様な文化的背景に、理解を深めることが求められます。

(施策例)

- ・外国人にとっても暮らしやすいまちづくり
- ・海外との生活・文化交流の促進 等

個別目標3 モノ(もの)づくりから未来へ独自の産業と都市文化を創造します ビジネス・インキュベーション機能の充実

これまで培われてきた大田区のものづくりの技能・技術を活かし、さらに新たなビジネスチャンスを拡大していくために、企業同士をコーディネートしたり、新たな起業を支援したりする機能を強化することが重要となります。また、羽田空港国際化を活用し、アジアの企業との連携を促す取り組みを活発化させることが必要です。

(施策例)

- ・ものづくり産業の維持に向けた支援策の充実
- ・新たな交流、起業を生み出すコーディネート機能の拡充
- ・アジア、世界に向けたおおたブランドの発信 等

住工調和した新たなまちづくり

大田区のものづくりは、住まいと職場が近接している職住近接のまちの成り立ちに支えられてきました。地域社会の一員となっている工場等が地域で事業を継続できるよう、地域に住まう人と働く人がともに支え合う住工調和のとれたまちの推進が望まれ

ます。

(施策例)

- ・ものづくり産業と住宅の調和への取り組み
- ・ものづくり産業の魅力向上 等

新たな都市文化を創造する産業人の育成

次代の大田の産業を担う人材の育成と確保を進めるために、大田の産業の情報を若い人たちに発信したり、各種イベント等を通じた人材のマッチング、技能・技術の継承を図る取り組みを充実するなどさらなる人材の育成確保策の構築を求めます。

(施策例)

- ・技能、技術を支える人材の育成、確保に向けた取り組みの推進
- ・円滑な技能・技術の継承 等

近隣商店街のにぎわいづくり

高齢者の増加、働き方の変化など商店街利用者のニーズが刻々と変化している中で、身近な地域の商店街の重要性は今後ますます高まっていくものと考えます。そのため、近隣商店街における人々の交流によるにぎわいづくりと地域コミュニティを支える役割を担う取り組みを応援することが必要と考えます。

(施策例)

- ・人と店がふれあい、つながる商店街への取り組み支援
- ・商店街をまちの拠点として活かす
- ・他の地域との連携を促進 等

観光産業の振興

世界に冠たるものづくり産業の集積とその歴史、点在する水辺と緑、そして一大集客拠点・羽田空港の存在など、大田区は潜在的な魅力を有しています。地域資源を発掘し、連携を図り、おおたブランドとして内外に発信し、大田の力をアピールするとともに観光客の受け入れ体制づくりが必要と考えます。

(施策例)

- ・また誰もが訪れたいまちへまちなみ景観の整備
- ・おおたのまちの魅力を発信
- ・まちに活気とにぎわいを生み出す環境の整備 等

2 基本計画の枠組みについて

基本計画の策定に当たっては、重点的に取り組むべき施策を提示し、その狙いなどを区民により分かりやすく示すことが重要です。そのため、以下の計画体系及び計画の構成を基本に基本計画を策定すべきと考え答申します。

(1) 計画の体系

基本目標1 「まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市」(案)

個別目標1 水と緑(みどり)を大切(大事)にし、すべての人に安全・安心で潤いのある暮らしを実現します

「施策の方向性(中項目)」として掲げるべき主な視点

- ・魅力と個性があふれるまちづくりの充実
- ・動きやすい交通ネットワークの整備を推進
- ・やすらぎと潤いを醸し出すまちづくりの実現
- ・安全、安心なまちづくりへの取り組み推進
など

個別目標に掲げた施策をこの体系の考え方に合わせて整理

個別目標2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

「施策の方向性(中項目)」として掲げるべき主な視点

- ・羽田空港跡地を多様な活動、交流拠点として活用
- ・可能性を秘めた臨海部のまちづくり
- ・空港を地域力高める原動力として活かす
- ・国際交流を育むまちづくりの推進
など

個別目標に掲げた施策をこの体系の考え方に合わせて整理

個別目標3 モノ(もの)づくりから未来への独自の産業と都市文化を創造します

「施策の方向性(中項目)」として掲げるべき主な視点

- ・ものづくり産業を維持、発展に向けた取り組み推進
- ・次代を担うおおた産業人の育成
- ・商店街機能を地域の活性化につなげる
- ・暮らしと産業を支えるサービスの強化
- ・おおたの観光力を高める

個別目標に掲げた施策をこの体系の考え方に合わせて整理

など

第2、第3専門部会担当部分は省略。